

入浴事故を防ぐ安全対策



- お湯は41度以下で10分まで、長湯はしない様に気を付けましょう。
- 浴室、脱衣所も暖めておきましょう。
- 転倒防止にてすりを設置しましょう。
- 声をかけてからお風呂に入りましょう。

• ゆっくり出浴

浴槽で急に立ち上がると立ちくらみ・失神をおこし、浴槽内に倒れて溺れる危険があります。浴槽につかまり頭を低くして前かがみになる、浴槽のへりに腰かけるなどしてゆっくりと立ち上がりましょう。



• 銭湯など公衆浴場を利用

死亡事故のほとんどが自宅浴槽での発見の遅れが原因です。人目が多く発見が早い事で事故を防ぐ事が出来ます。

• こういう時は入浴を控えましょう。

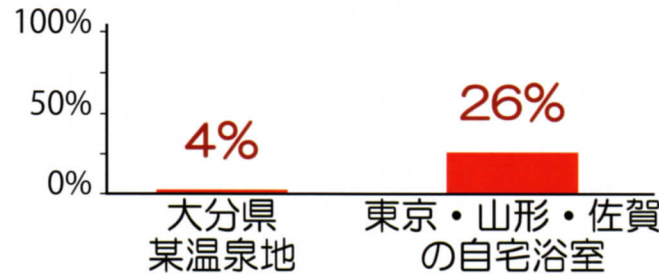
- 体調が悪い時・お酒を飲んだ後
- 睡眠薬などを飲んだ後



もしもお風呂でぐったりしている人溺れている人を発見した場合は



- 公共施設では心肺停止が少ない。発見が早いからです。

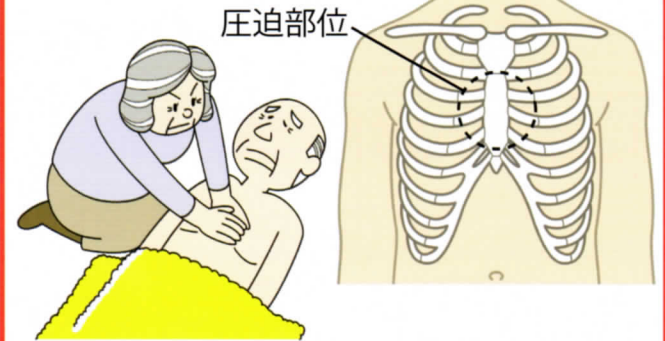


(入浴関連事故班調査より)

救急車を待っている間に一次救命処置

呼びかけても反応がなく呼吸をしていなかったら胸骨圧迫・人工呼吸をして下さい。

①胸骨圧迫を30回



②次に人工呼吸を2回



※呼吸が戻るまで①②を繰り返す。